

# 花きのマルチ栽培に関する研究

## 第1報 球根花きについて

川崎重治・田中政信

(佐賀県農業試験場)

KAWASAKI, S. and TANAKA, M.

Studies on the Polyethylene film mulching for Forist crops.

(I) On the Bulbous flowers.

そ業のマルチ栽培はすでに実用化され、作季の拡大、作柄の安定化と省力化などに大きな成果を収めているが、花きのマルチ栽培については、十分な検討がなされていない。筆者らは1969年以来、球根養成栽培や切花栽培の適応性を検討中であるが、花きのマルチ栽培は、生育や開花促進、切花の形質改善、病害や湿害防止など諸障害の回避などに有効であり実用性が広いことを確認したので秋植球根についてその結果を報告する。

### (1) 試験方法

供試作物と品種はスイセン（フォーチュン）、アイリス（ブルーオーシャン、ブルーリボン）、ヒヤシンス（キングオブ・ザ・ブルー、レディー・ダビー）で、ポリフィルムは白色と黒色を用い、裸地と比較した。供試土壌は海成沖積粘土と砂壤土で、露地に11月11日に植付け、それぞれのフィルムをマルチングした。施肥は緩効性肥料（IB）を用い a 当り N-1.5kg, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-0.9kg, K<sub>2</sub>O-1.3kg を全量元肥として作畦時に施した。

### (2) 試験結果

#### 1. スイセン

発芽は地温の高い白マルチ区が早く、裸地区は20日以上遅れ、黒マルチ区は前二者の中間位を示した。開花始めは白マルチ区の3月8日をもっとも早く、黒マルチ区は前者より8日おくれ、裸地区は著しくおくれマルチの開花促進効果が顕著である。切花の形質は白マルチ区の草たけがよく伸び、花径も大きく、葉色、花色ともに裸地よりも濃く、品質に格段の開きがみられた。

#### 2. アイリス

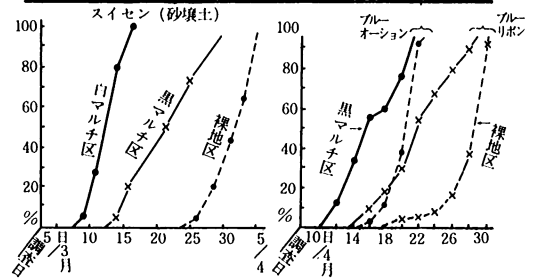
黒マルチ区は11月28日に発芽し、裸地区は約20日遅れ、開花始めは7日ほどの較差をみた。切花の形

質についてはスイセンと同じく、マルチは切花の形質改善に役立つことが解った。

第1表 切花形質調査

スイセン	マルチ種類	砂壤土		埴土	
		草たけ	花径	草たけ	花径
	白マルチ区	40.4cm	9.4cm	35.2cm	8.3cm
	黒マルチ区	33.3	8.7	34.8	8.5
	裸地区	26.6	8.4	27.7	8.1

アイリス	マルチ種類	ブルーオーシャン		ブルーリボン	
		草たけ	葉数	草たけ	葉数
	黒マルチ区	36.2cm	5.9枚	42.2cm	6.6枚
	裸地区	34.3	6.1	41.2	6.6



第1図 時期別開花率の推移

### 3. ヒヤシンス

白マルチ区は生育促進や開花期の前進は、前記作物目と変わらない。この現象は土壌によって違い、砂壤土よりも埴土において著しく強調された。

### (3) 総括

マルチの種類と地温の推移は既往の報告と一致し各作物共通しているのは、マルチ区は発芽や生育が大きく前進し、開花が早まる。切花の形質はすぐれ、商品性の向上に役立ち、切花栽培の早出しに適用できよう。とくに半促成や促成栽培にその利用が期待される。今後は適用品目の探索、作型設定、フィルムの種類や雑草防除、施肥法を検討したい。